九州の橋探訪

（株）第一コンサルタンツ
右城　猛

1. まえがき

小泉内閣の三位一体改革の影響で，いま地方の多くは瀕死状態にある。そんな中，連日観光客で賑わっている町がある。大分県の九重町である。20 億円を投じて建設した「九重夢大吊橋」のオープンから 5 ヶ月で入場者が 100 万人を突破したというからすごい。何が人々をそこまで惹きつけるのかを知りたいと思っていた。

そのような折り，(株)愛橋の安見和夫氏が 5 月の大型連休を利用して夫婦で「熊本石橋巡りの旅」を計画しているのを知った。無理を言って私と家内も同行させてもらい，高千穂峡，熊本緑川水系の石橋，水前寺公園，熊本城，雲巌禅寺，九重夢大吊橋を見学してきた。

橋探訪と言えば聞こえはよいが，熊本で馬刺，大分で関さばと関あじを肴にして，芋焼酎を堪能したいというのが本音である。

2. 高千穂峡に架かる橋

（1）概　説

九州山地に源を発する一級河川五ヶ瀬川は西から東へと流れ，延岡市で日向灘に注ぐ。五ヶ瀬川に沿って一般国道 218 号と JR 高千穂鉄道が走っており，渓谷にたくさんの美しい橋梁が架けられている。橋の形式や写真，橋めぐりモデルコースなど詳しい情報は，宮崎県西臼杵支庁のホームページ「雲海に架かる橋紀行」で紹介されている。

高千穂では，五ヶ瀬川が溶岩を浸食して「柱状節理」や「真名井の滝」が見られる高千穂峡をつくっている。そこに架かっている代表的な橋を河床に近い順に示すと，神橋(しんばし)，高千穂大橋，神都高千穂大橋(しんとたかちほおおはし）である。橋梁技術の進歩によって高い位置に長い橋が架けられたことを物語っている。材質はそれぞれ異なるが，いずれもアーチ橋である。

高千穂渓谷と柱状節理

高千穂峡の橋梁。上から，高千穂大橋，神都高千穂大橋，神橋

石造アーチの神橋

（2）神　橋

神橋は昭和 22 年の県道開設に伴って架設された橋長 31.5m の石橋。コンクリートアーチの上に石組する方法で架けられている。なお，大正時代に架けられたという説もあるが，宮崎県の HP の説明を採用した。

神都高千穂大橋の側面

RC のアーチ橋

円形のラインを出すためアーチリブにテーパーを付けている

RC 方杖ラーメン橋

神橋の橋面までの高さは 31m であり，欄干には擬宝珠（ぎぼし）が付けられている。

(３)高千穂大橋

昭和 30 年に架設された橋長 96m の鋼製アーチ橋。橋面までの高さは 75m。この橋の情報はウェブを調べたが少ない。

（４）神都高千穂大橋

国道 218 号高千穂バイパスの一環として国土交通省が平成 15 年に架設した橋長 300m の RC 逆ランガ―橋。主桁は PC プレキャスト箱桁構造。アーチスパンは国内第 2 位の 143m。アーチライズは46.8m。水面からの高さは115m。

神都高千穂大橋のプロポーションはとても壮大で美しいのであるが違和感を感じた。

ランガー橋ではアーチリブを折れ線形にする。曲線にすると軸線が偏心して大きな曲げモーメントが発生するからである。神都高千穂大橋も折れ線としているが，アーチリブに円形のラインを出すためテーパーを付けているのである。美観をよくしたつもりが逆に悪くしている。

(５) 醜悪な橋梁

高千穂峡の散策コースには，周囲の景観を台無しにするような醜悪な橋梁もある。石橋に似せた安っぽい作りのＲＣアーチ橋，デザインや塗装の色が周囲にマッチしないＲＣの方杖ラーメン橋である。

3. 緑川水系の目鑑橋

九州には，各地に石橋が残されている。熊本県では緑川水系に多くの石橋があり，国あるいは町の重要文化財として保存されている。それは，石橋には，命がけで新しい技術を追い続けた石工，地域発展のために惜しみなく浄財と労力を提供した庄屋と住民たちの情熱がみなぎっており，見る者の心を揺さ振るからである。

今回の旅行では，日本の歴史的文化遺産である山都町の通潤橋と美里町の霊台橋を見物することが私にとって大きな楽しみであった。

石橋は一般的にアーチ橋である。アーチ橋を表す言葉には，眼鏡橋，眼鑑橋，目鑑橋，太鼓橋，拱橋，曲橋，反橋，虹橋などあるが，肥後の国では目鑑橋(めがねばし)と呼んでいる。

（1）通潤橋(つうじゅんきょう)

ａ）通潤橋史料館

国の重要文化財である通潤橋は，国道 218 号から山都町（旧・矢部町）を南へ約 1km 下った緑川支川・五郎ヶ滝川（轟川）に架けられている。

以前から一度は見学したいと考えていた橋であるが，観光ルートからはずれているため見る機会を逸していた。

私達が道の駅「通潤橋」の駐車場に着いたのは 11 時前であった。駐車場の案内板には，放水開始時間が 10 時，12 時，14 時と書かれていた。次の放水まで時間があったので，通潤橋に関する資料を入手しようと思い，道の駅に入ったが，山都町の特産品や土産物を売っているだけであった。

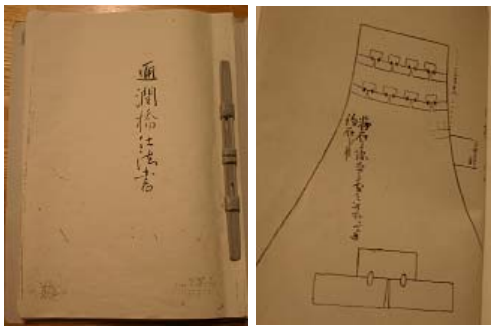
店員に尋ねて分かったのであるが，道の駅の奥に「通潤橋史料館」が併設されていた。300 円の入館料を払って中に入ると，館長とおぼしき初老の男性がいて，通潤橋の構造や施工方法，建造に携わった人々について詳しく説明してくれ，私の質問にも丁寧に答えてくれた。

館内には通潤橋の構造や施工方法などを分かり易く説明したパネル，亀裂が入ったために取り外した石管や木管，橋を建造するための仕法書のレプリカが展示されていた。仕法書には，通潤橋を施工するための設計図面や説明が墨汁で書かれていた。現代の示方書や仕様書とは異なり，設計書と呼ぶ方が適切なように思える。当時は肥後藩の重要な機密文書であったに違いない。

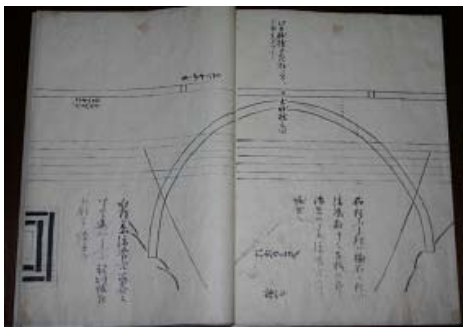
ｂ）通潤橋の構造

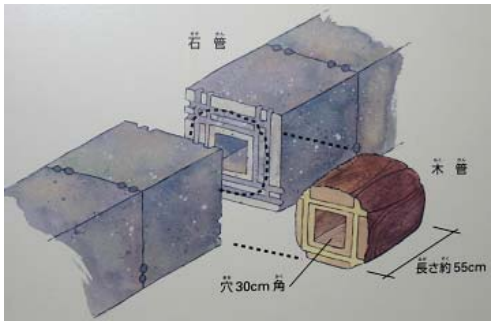
通潤橋は，対岸の水を水不足で困っていた白糸台地に引くために作られた水路橋である。霊台橋と同じ宇一らの種山石工集団によって作られた。種山石工とは，肥後八代の種山村

道の駅「通潤橋」の HP より



示法書の表紙(左)，橋の壁石垣の反りと鎖石

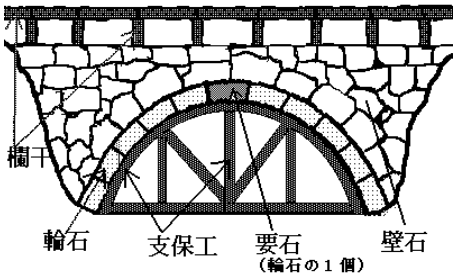




木管と石管を組み合わせた導水管

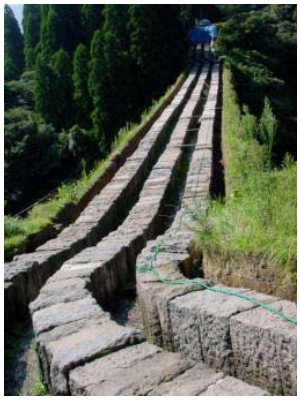
実物の木管(左)と石管(右)

通潤橋の形状寸法



目鑑橋の各部の呼び名

通潤橋の上流側



連通管を補修した際の写真
(産業技術遺産探訪 HP より)

貯水池

(現・熊本県八代郡東陽村）出身の石工のことである。この橋が素晴らしいのは，当時としては画期的な新技術が随所に盛り込まれていることである。

一つは，連通管の原理の考案である。橋の高さを左右岸の土地の高さに合わせると，あまりにも橋が高くなり過ぎて，当時の石工の技術では施工が無理であった。そこで考案されたのが連通管の原理である。橋が架けられる高さ 23m 程度まで水を降ろし，橋まで降ろした水を今度は対岸の台地まで引き上げる方法である。これは当時としては画期的な発想であったようである。

取水口側の連通管には微妙なカーブをつけている。水勢を弱めて，水圧を減じるための工夫である。

二つ目は，連通管の構造。強い水圧に耐えらせるため，方形の石材に 30cm 角の通水孔をくりぬいた石管を漆喰や切込によって密着させる構造としている。石管だけを連結したのでは，温度変化による伸縮への追随，連通管が破損したときの取り替えが困難になる。このため，石管３個おきに木管１個を挟み込んでいる。

連通管は橋の上に３列設置している。これは，白糸台地の 100ha の水田を潤わすだけの水量を確保するためである。

三つ目は，維持管理のための工夫である。橋の左岸と右岸にはそれぞれ貯水池が設けられている。橋の中央部には，2 本の連通管の放水口が上流側に，残り 1 本の連通管の放水口が下

流側に設けられている。まず，左岸にある貯水池の取水口と，連通管の放水口を開いて放水すれば，左岸寄りの連通管内の土砂を除去できる。次に，右岸にある貯水池の取水口と，連通管の放水口を開いて放水すれば，右岸寄りの連通管内の土砂を除去できる。

四つ目は，石垣に見られる工夫である。通潤橋は橋の高さ 20.2m，橋の幅 6.3m である。幅の割に高くて不安定になりやすい。この問題点を解消するため，輪石の基礎部を鞘石垣(さやいしがき)で包んで脚部を補強すると共に，石垣に「武者返し」のような反りを付けて裾を広げることで安定性を高めている。また，鞘石垣が届かない石垣の上部には，壁石を両方から引張り合うように要所に鎖石を設置して，石垣が孕むのを防止している。

通潤橋の鞘石垣や反りは，熊本城の石垣を研究し，それを応用たものである。鞘石垣のすその広さ，勾配などは，小型の模型による実験で決定したようである。

輪石の脚部を補強した鞘石垣

ｃ）放水

放水は，元々は連通管の内部に溜まった泥や砂を除くためのものであるが，農閑期にあたる 10～12 月の土曜，日曜，祭日，5 月の連休期間中は，10 時，12 時，14 時に観光客のために放水している。

放水の時間は 25 分程度あるので撮影には十分余裕がある。一旦，放水口の栓を開くと貯水池が空になるまで放水が続くが，時間が経つにしたがって，放出される水に勢いがなくなる。

３箇所の放水口から，水が勢いよく放物線を描く姿は見事である。放水は，橋の上からも見ることができるが，橋には手摺りがないので危

放水口

険である。小さな子供達も大勢いる。もしも転落事故が起きれば，管理者の責任が問われることになりかねない。

見学した翌日のこどもの日に，大阪の万博公園の遊園地「エキスポランド」で，ジェットコースターが脱線し，女性客が死亡したというニュースが報道された。全く種類の異なる事故であったが，万一のことを考え通潤橋でも何らかの安全対策を講じておく必要がある。

放水があった時間は，生憎と雨が降っており，カメラのレンズに水滴が付着して綺麗な写真が撮れなかったのが残念。本当は，私の腕が未熟なのだが。

（２）霊台橋(れいたいきょう)

道の駅「通潤橋」のレストランには，観光客が列をなしていたので，昼食は霊台橋に行く途中でとる予定であったが，適当なレストランが見つからなかった。時刻は 1 時近くになっており，お腹がすいていた。このため，見学の前に，橋の袂にある築 100 年という木造の店に入って，たこ焼きを食べた。

店のおばさんはとても親切で，お茶と漬け物を出してくれ，霊台橋の話をしてくれた。食べ終えて店を出る際に，私が，高知から来たこと，

橋梁技術者であることを告げると，砥用町(現・美里町)教育委員会が昭和 61 年に発行した「ともちの石橋」と題する貴重な冊子をくれた。

霊台橋は，総庄屋の篠原善兵衛が 1847 年に架設した石橋で，橋長 89.8m，径間 28.4m，幅員 5.5m，高さ 16.3m。径間の長さは日本一。緑川ダムのすぐ下流側に位置しており，鋼製逆ランガー橋の国道 218 号線と平行して架かっている。

橋名には地名をつけることが多いが，篠原善兵衛が魂をかけた橋ということで，霊台橋と名付けたようである。

工事の責任者は大工の棟梁・伴七，石工は種山の宇助，宇市，丈八兄弟である。延人員 43，967 人を動員して，7 ヶ月の短期間で工事を完成させている。

取り付け道路の石垣の根元は，石垣を多段に積んだ工夫が見られる。施工途中に石垣が孕みだしたため補強対策として施工された可能性が考えられる。架設から丸 160 年になるが，石垣に寸分の狂いも生じていない。見事な技術である。

明治 33 年に県道になった時，この石橋の上にさらに石垣を積んで現在の道路の高さまでかさ上げし，昭和 41 年 5 月に国道 218 号線の橋が架けられるまでトラックやバスが通る道路として利用されていた。

霊台橋の橋面は前後の道路より一段低くなっており，昇降のための階段が付けられている。国道橋が架けられた後，歩道橋として利用されていたが，昭和 56 年に以前の姿に復元されたためである。

橋の右岸にあるたこ焼きや

霊台橋の上流側。奥に見えるのがたこ焼き屋

下流側の石垣は補強されている

橋面が前後の道路より一段低い

（３）安見橋

安見橋は，豊野町安見地区を流れる浜戸川に，石工の祐助によって嘉永元年（1848 年）に架けられたと伝えられる石橋。橋長 22.70m，幅 3.70m，スパン 19.00m，アーチライズ 7.20m。安見地区と下鶴地区を結んだ橋であることから，地元では下鶴橋とも呼ばれている。

日本で「安見」という地名があるのはここだけだそうで，安見氏のルーツかも知れないと考えたのであるが，ビニールハウスの中で農作業をしていた老婆の説明では，この地区に安見という姓はないとのことであった。

安見橋

200 円の雨合羽を着て吊橋をわたる

同じ名前の橋に愛着を感じる安見氏

橋の上は雨合羽を着た観光客で一杯

橋の袂の表示板では下鶴橋

濃霧のため幻想的な風景

4. 九重夢大吊橋

九重夢大吊橋(ここのえおおつりばし)は，鳴子川九酔渓の上空に架けられた日本一の長さと高さを誇る吊橋。九重町が総工費約 20 億円（周辺整備費を含む）と 2 年半の歳月をかけて平成 18 年 10 月 30 日に落成させた。橋長 390m(主塔間), 幅員 1.5m, 水面からの高さ 173m。

オープンから 5 ヶ月で入場者数 100 万人を突破したというからすごい。入場料は中学生以上が 500 円，小学生以上が 200 円。土産物の売上げを含めると 1 ヶ月の収入は 2 億円を下らないだろう。

背後は土産物店

タオルで雨からカメラを保護

4 月 28 日から 5 月 6 日の間の入場者数は 10 万 3 千人で, 橋を渡るために長蛇の列ができ, ピーク時の待ち時間は 3 時間を超えたようだ。

私たちが着いたのは 5 日の 15 時過ぎ。生憎の小雨であった。それでも乗用車 200 台，大型バス 32 台を収容する駐車場は満杯状であった。

橋の上は雨がっぱ姿の人で溢れていた。狭い橋の上は危険なため傘を広げるのを禁止し, 雨合羽を橋の袂の土産物店で，1 個 200 円で販売していた。ボタンは２つだけの二度と着用できないような薄いビニール製。定価は多分 50 円くらいだろう。ぼろ儲けである。

一時は濃霧のため視界が遮られたが, 山水画を思わす幻想的な風景を楽しむことができた。霧が晴れると日本の滝百選の一つ「震動の滝」(男滝とも呼ぶ)や女滝，新緑で覆われた九酔渓, 雄大な「くじゅう連山」が目の前に現れた。周囲の景観に溶け込んだ橋の美しさは筆舌に尽くしがたい。「天空の散歩道」と形容するだけのことはある。

ここには四季折々の美しさを見せる自然が残っている。近場には「阿蘇くじゅう国立公園」, 「湯布院」，「別府」といった観光名所がある。これらが吊橋の魅力を一層高めているように思えた。

旅行から帰った翌日(5 月 7 日)に，「天上に架かる日本一の吊橋」と題する記事を高知新聞の「声ひろば」に投稿した。それが，若干，添削訂正されて 5 月 12 日(土)に掲載された。

5. 食 事

（1）熊本の馬刺し

熊本市での宿泊は, 辛島公園のすぐ東にあるチサンホテル。夜の食事は，辛島公園の西にあるアーケード「新市街」の中，「第一ファームビル」の地下の「うっず」という居酒屋。

料理は事前にネットで調べて予約してあった。刺身盛合せ，サラダ，馬刺し，うっず特製ピザ，車海老の塩焼き，鶏料理，溶岩焼き(馬肉二種・野菜盛り)，ごはんもの，デザートにお酒を飲み放題でなんと一人 3,500 円。普段は 5,000 円のコースであるが, 創立 10 年記念ということで特別に安くなっていた。

料理の味は期待をはるかに超えていた。和食に, ピザやサラダを組み合わせているのに少し違和感があったが, これがとても美味しかった。店員は若くて感じが良い。この不況の時代，営業を 10 年間続けるだけでも難しい。10 周年を迎えた店だけのことはあると納得した。

４人で 14,000 円のところを間違って 19,000 円支払ったようであるが, それでも損をした気にはならない。

居酒屋「うっず」の入り口

感じの良い若い店員に撮影してもらう

（2）別府の関あじ・関さば

さばやあじは大衆魚。ところがこれに「関」が付けば値段は何十倍にも跳ね上がる。「天下の美味」関あじ，関さばは，大分県佐賀関（さがのせき）で水揚げされる高級魚。別府に泊まれば，これを食べないわけにはいかない。

ホテルは別府駅の近くの「ホテルアーサー」をとっていたので，事前にその近くにある居酒屋「こいのぼり」を予約していた。

別府といえば温泉。生ビールを飲む前に温泉に浸かりたい。ホテルアーサーにも立派な岩風呂の温泉はあったが，由緒ある温泉が良いという安見氏の意見で竹瓦温泉に入る。別府市が管理していといっても入浴料 100 円は安すぎる。

昔のままの飲み屋街を散策しながら居酒屋「こいのぼり」に行く。

関あじと関さばのお造りだけは予約してあったので，すぐに出てくる。少し旬を過ぎているが「漁師さんから直送」の店だけあって新鮮で美味しい。関あじと関さばは，刺身を食べた後を吸い物と骨の唐揚げにしてくれた。捨てるところがない。

別に注文した料理では，「だんご汁」が抜群に美味しかった。これには全員の意見が一致。

だんご汁は，大分の郷土料理。名古屋の「きしめん」を一回り大きくした麺と一緒に，大根，人参，ごぼうなどの野菜を味噌味のダシで煮たもの。２年前に高知県橋梁会で来て，臼杵で食べたとき，まずかった記憶がある。店によって味がこんなに違うものかとビックリ。

この店は有名なのか，間寛平など多くの芸能人が来られているらしく，一階の壁にの色紙がたくさん貼ってあった。

郷土料理居酒屋「こいのぼり」の HP より

関さばのお造り

生ビールで乾杯後に記念撮影

明治初期に創業，写真の建物は昭和 13 年

6. 観　光

（1）道の駅

臼杵港から国道 57 線を走って高千穂に向かう途中，国道の脇で「神楽」が演じられているのを見かけた。場所は，道の駅「波野（神楽苑）」(阿蘇市波野)。トイレ休憩も兼ねて，神楽を楽しんだ。

車窓の景色は素晴らしい。時折，車を止めてもらい，写真撮影をしながら高千穂に向かう。

道の駅「波野・神楽苑」

神楽の舞

菜の花畑

阿蘇

（２）高千穂

■高千穂峡

４時前に高千穂峡に到着する。高千穂大橋の右岸に駐車場があったが満車。奥の臨時駐車場に車を止め，そこから市営バスで淡水水族館まで行く。

そこには土産物店，民宿などがあり，すぐ近くにある橋の下が，日本の滝 100 選にも選ばれている「真名井の滝」。ボートに乗れば最高であろうが，順番を待つのに時間がかかりそうであったので諦めて，遊歩道を歩きながら渓谷を観光する。

淡水水族館がある広場

後方が真名井の滝

後方に神橋と高千穂橋が見える

■夜神楽

高千穂での宿は，高千穂小学校(廃校になっていた)の北隣の民宿「千穂」。

高千穂神社の神楽殿で，夜の 8 時から 9 時までの 1 時間，夜神楽が公開されているというので見に行く。

天照大神が天岩戸に隠れた折に，岩戸の前で天鈿女命(あまのうずめのみこと)が調子面白く舞ったのが始まりで，その踊りが高千穂の神楽である。

高千穂観光協会の人が 5 人一組になって 10 組が交代で，観客が例え一人であっても毎日休むことなく公演しているとのこどある。入場料は一人 500 円。

神楽は実際には 33 番あるが，実演されるのは時間の都合で「手刀男(たぢからお)の舞」，「鈿女(うずめ)の舞」，戸取(ととり)の舞」，「御神体の舞」の 4 番だけ。御神体の舞は，イザナギ･イザナミの二神が酒を作って仲良く飲んで，抱擁するという舞。

踊り手によるのかも知れないが，素人の田舎踊りという感じを受けた。道の駅で見た舞が数段優れていた。

手刀男の舞

満員の高千穂神社神楽殿

■　国見ヶ丘

朝，6 時に民宿を出発して，標高は 513m の国見ヶ丘に上る。ここは，神代の昔，神武天皇の孫にあたる建盤竜命（たていわたつのみこと）が九州統制の際に，この丘に立ち，明け暮れに国見をされたことから国見ヶ丘と呼ばれるようになったと伝えられている。

ここから雲海を見るつもりであったが，時期が悪かった。雲海は，秋から初冬の快晴無風の冷え込んだ早朝にしか出現しない。

国見ヶ丘から国見する建盤竜命（たていわたつのみこと）

国見ヶ丘から見る予定であった雲海

Photo Miyazaki 宮崎観光写真の HP より

■神話史蹟

神話史蹟コースには，神武天皇の 4 人の兄弟神が生まれた場所とされる「四皇子峰（しおうじみね）」，天孫降臨（てんそんこうりん）の後で八百万神々が高天原を拝した場所とされる「高天原遥拝所（たかまがはらようはいしょ）」，天照大神の孫にあたる瓊々杵尊(ににぎのみこと)を祀った「くしふる神社」，天村雲命(あめのむらくものみこと)が天孫降臨の際に，この地に水がなかったことから再び天に昇り，水種を移したと伝えられる天然の泉「天真名井（あまのまない）」がある。

天真名井には，推定樹齢 1300 年のケヤキの大木がある。

神話史蹟の散策

天岩戸神社鳥居前にある手力雄命の像]

高天原遥拝所

神職の方に説明を受ける

天真名井と樹齢 1300 年の大ケヤキ

お祓いをして清めの儀式をする場所

■天岩戸神社(あまのいわとじんじゃ)

天岩戸神社の鳥居の前には，天岩戸(あまのいわと，天岩屋ともいう)をこじ開けたと伝えられる力雄命（たじからおのみこと）の像がある。

鳥居の奥にある神社は，おおひるめのみことを祀っている西本宮である。社務所で頼むと神職の方が，神社の中を案内しながら天岩戸神社の歴史を説明してくれた。

西本宮には誰でも入って拝むことができるが，天照大神（あまてらすおおみかみ）が隠れたという天岩戸を見るには，西本宮の裏に回らなければならない。裏に行くには，神職の方にお祓いをして清めてもらう必要がある。

西本宮の横の門扉を開けて中に入ると，そこは神聖な御神域になる。西本宮の裏には岩戸川という渓谷があり，対岸は断崖絶壁になっている。樹木に覆われているので見ることはできないが，断崖の中腹に洞窟があるそうで，そこが天岩戸で，天照大神を御神体としてお祀りしている東本宮である。

天岩戸神社から 500m ほど岩戸川の上流に行くと，天河原(あまのかわら)がある。天照大神

が天岩戸から外に出てもらおうと，八百萬神が集まって相談をしたという場所。清流と若葉がマッチし，とても美しい渓流である。

天河原の一角には，仰慕窟(ぎょうぼがいわや)と呼ばれる洞窟があり，その中に天安河原宮が祀られている。ここで石を積み重ねて祈願すると願い事が叶うそうである。特に中風に効くとの信仰があり遠くから参拝者が絶えないと言われている。洞窟の中や周辺一面に石が積み重ねられていた。

祈願するために積み上げた石

天河原に向かう途中の案内標識

天河原に向かう道

仰慕窟

（３）水前寺公園

水前寺公園の正式な名称は，水前寺成趣園(すいぜんじ・じょじゅえん)。

私は今回が三度目であったが，桃山様式の優美な回遊式庭園はいつ見ても美しい。

公園の中には，細川家歴代藩主を祀った出水(いずみ)神社，古今伝授の間，能楽殿などがある。

美しい水前寺公園の庭園

背後に近代的な建物が見えるのが残念

セルフタイマー機能を使って記念撮影

「武者返し」の石垣

（4）熊本城

熊本城は, 加藤清正が 1601 年から 1607 年に建てたお城。加藤清正が病死した後，1632 年に細川忠利が入封している。

天守閣と本丸御殿一体は, 西南戦争の 3 日前に原因不明の出火で消失している。多層櫓では宇土櫓(うどやぐら)だけが創建当時のまま残っている。昭和 35 年から天守閣の再建工事が行われており, 現在の大天守閣と小天守閣は, 昭和 53 年に復元したものである。現在も，本丸御殿大広間などの建物の復元工事が進められている。日本三大名城の一つと言われるだけあって，素晴らしい。

特に，「武者返し」と呼ばれる熊本城の石垣は見事である。石垣を築いたのは，安土城や大阪城の石垣を築いた近江(滋賀県)の石工・穴太衆といわれている。熊本城の石垣の技術が，肥後の石工のルーツになっている。

今年は築城 400 年に当たるということで沢山のイベントが催されているようであるが, 時間の関係で見ることはできなかった。

見事な石垣

復元のために制作された天守閣の 1/10 模型

昭和 53 年に復元された大小天守閣

創建当時の建物がそのまま残っている宇土櫓

（５）曹洞宗雲厳禅寺

曹洞宗雲厳禅寺は，熊本市の東，金峰山の麓に位置している。車で約 20 分の距離にある。

武蔵が籠もって五輪書を書いたといわれる洞窟・霊巌洞があるため，平成 15 年に NHK の大河ドラマで「武蔵」が放映されてから人気が出たようである。

雲厳禅寺の近くに，「勝ち運を呼ぶ武蔵像」が建立されていた。「未来武蔵の会」という武蔵信奉者の組織が寄付金を集めて，平成 15 年に建立したもの。お賽銭をあげて，がらがらと鈴を鳴らしてお参りすると，勝負に勝てるということであるが，『神仏は尊んでも，神仏に頼るべからず』と書いた武蔵に願い事をするというのは何とも滑稽である。

雲厳禅寺に入って奥に進むと，笑った顔，瞑想にふけった顔，おどけた顔，さまざま表情の石像が斜面に据えられている。五百羅漢(ごひゃくらかん)である。羅漢とは，お釈迦様の弟子。一つ一つ見て歩くと友人知人にそっくりの顔に必ず出会うと言われている。

五百羅漢は，熊本の商人淵田屋儀平が 1779 年から 24 年の歳月をかけて肥前の国の石工・了善に彫らせて奉納したものと言われている。完成したときには 500 体あったが，風化や地震などのため破損し，現在残っているのは半分程度である。

羅漢像のある所をさらに奥に進むと，宮本武蔵が「五輪書」を著すために籠もったとされる洞窟・霊巌堂がある。

お参りの前に手を清める

勝ち運を呼ぶ武蔵像

淵田屋儀平が奉納した五百羅漢

大儲けできることを祈願して鈴を鳴らす妻

武蔵が籠もって五輪書を書いた洞窟

霊巌洞の内部

（6）「やまなみハイゥエイ」から九重町

熊本市から国道 387 号を菊池温泉のある菊池市まで北上，そこから県道を東に進み菊池渓谷を見ながら阿蘇の大観峰に出る。大観峰からさらに東に走り，県道 11 号，通称「やまなみハイゥエイ」に出る。そこから，やまなみハイゥエイを北上し，瀬の本高原を通過して九重町の「九重夢大吊橋」にたどり着く。時刻は 3 時過ぎ。天候が悪いのが残念。

阿蘇の景色

7. 最後の橋梁

八幡浜行き宇和島運輸フェリーの別府港発は 9 時 45 分。それまでの時間つぶしに明礬(みょうばん)温泉の近くにある大分自動車道の別府明礬橋を見に行く。アーチ支間が 235m の鉄筋コンクリート・アーチ橋。1989 年に完成し，その年の土木学会田中賞，プレストレスコンクリート技術協会賞を受賞している。

ところが生憎の濃霧。視界が非常に悪く，フェリーも欠航しないかと危ぶまれる天候であった。

濃霧に包まれた明礬橋

8. あとがき

4 月 20 日に高知県橋梁会の研修会があった。その後の二次会の席で，安見氏が「安見橋」を見に行く計画を立てていることを聞き，同行させてもらうことにした。

5 月 3 日の朝 5 時 30 分に自宅を出発。松山インターから安見氏の車に乗せてもらい，3 泊 4 日の旅に出た。

天気に恵まれたのは 5 月 3 日と 4 日の半日だけで，後は小雨が降ったり止んだりという状態であった。大型連休のため渋滞に巻き込まれやしないかと危惧したが，安見氏が当初に練ってくれた計画通り旅行することができた。見学した橋や史蹟，風景は予想していたよりもはるかに素晴らしく，感動させられた。行く先々で出会った親切な人達，美味しい料理，楽しい想い出に残る旅となった。

お世話になった安見和夫・千春夫妻に，心より感謝を申し上げます。

居酒屋「赤たぬき」で理事の二次会

(2007 年 5 月 13 日)